

病院の中では、患者が道に迷いやすいです。

次に何をして良いのかわからず、茫然としている患者がいます。

通路に、壁に案内がいっぱい掲げられていますが、なぜ患者はウロウロしてしまうのでしょうか？

院内の案内をユニバーサルデザインの考えで見直しませんか？

ユニバーサルデザインとは、つまり、知らなくても誰でも直感で分かってしまう事を目指しているデザインです。

院内の案内は、内部者の常識を暗黙の了解として書きがちです。

院内の案内は、その時の担当者の個人的センスで書きがちです。

院内の案内を、ユニバーサルデザインで統一しますと、初診の患者も円滑に受診できます。

院内案内をユニバーサルデザイン化するコツ

[1]色は識別に役立ちます。属性に応じて、数種類の色をイメージカラーとして割り当てましょう。

例えば、（色弱の患者の特性に配慮して、形で表現する例があります）

道案内関係は青色で、放射線科へ⇒ 会計へ⇒

部屋名は緑で、②内科診察室 ⑥超音波検査室

患者が受診するのに必要な案内情報は黄色で、名前を呼ばれたら、ここでお待ちください

患者が知っておくべき医学情報のポスター関連は茶色で。例えば茶色のコルクボードに貼り付け

[2]矢印は、「次」や行き方向を示す便利な記号です。多用しましょう。

[3]数字は、順番や場所の特定に役立ちます。多用しましょう。⑤内科受付 ⑥皮膚科受付

（駅には番号が振られていますので、外国人にもわかりやすいです）

[4]必要な情報を、必要な人が、必要な場所で、必要な時に、順番の通り見れる事を念頭に配置する。

[5]文章を書く時には、

If . . . ,

Then . . . ,

Because . . .

の構文を使いましょう。

例：

胃内視鏡検査を受ける方は、食事を前夜 8 時まで済まして下さい。当日食べますと、検査に支障が出ます。

診察終了後は、中待合室でお待ち下さい。処方箋など必要な書類を係員がお渡しします。

レントゲン検査を受けたら、元の診察室に戻って下さい。結果説明があります。

ユニバーサルデザインは、見た目に美しいよりも、使い易さと分り易さ<for everybody>を実現する

素晴らしい	使い方を教える必要が無い、学ぶ必要が無い。それでも安全に、本来の使い方を誰にでもできる。Best の医療器械 . . . 訓練なしでも、その日から、安全に、効果的に、間違いなく使える。
不必要な イライラ	電気のスイッチ、イギリスでは下向きが switch on。日米では上向きが switch on。 ホテルの洗面所、どうすれば温水 or 冷水が出てくるのか、わからない。 テレビのコントローラーの使い方がわからなくて、NHK さえ視れない。 レンタカー、給油をしようとしたが、給油口を開けるリリースが見つからない。 公衆便所、どちらが男便所か女便所か迷ってしまう斬新優先のデザイン表式。 見知らぬ土地の市バス、料金の払い方がわからない。